

未来をちょっと考えるヒントデータ

索引

例：(名称)・・・(ページ数)

< 働 く >

- 1 働く目的について【全国調査】・・・2
- 2 「日本人の意識」調査にみる、仕事と余暇のあり方に対する意識【全国調査】・・・2
- 3 賃金水準について【全国調査】・・・3
 - (1) 学歴・年齢階級別賃金
 - (2) 雇用形態・年齢階級別賃金（正社員と非正規雇用）
- 4 主な勤務地・通勤時間について【さいたま市・20～40 歳代】・・・4

< 結 婚 >

- 1 20 歳代の「理想的な結婚年齢」と「実際の年代別既婚率」【さいたま市調査】・・・5
- 2 年齢別婚姻件数（初婚）【全国統計】・・・5
- 3 20 歳代が最も注力する婚活の手段【さいたま市調査】・・・6

< 子 育 て >

- 1 子育てに対するイメージ（プラス面とマイナス面）【さいたま市調査】・・・7
- 2 女性の年齢と妊よう力（妊娠する力）【全国】・・・7
- 3 さいたま市の主な子ども・子育て支援策・・・8
- 4 学習費総額【全国調査】・・・9

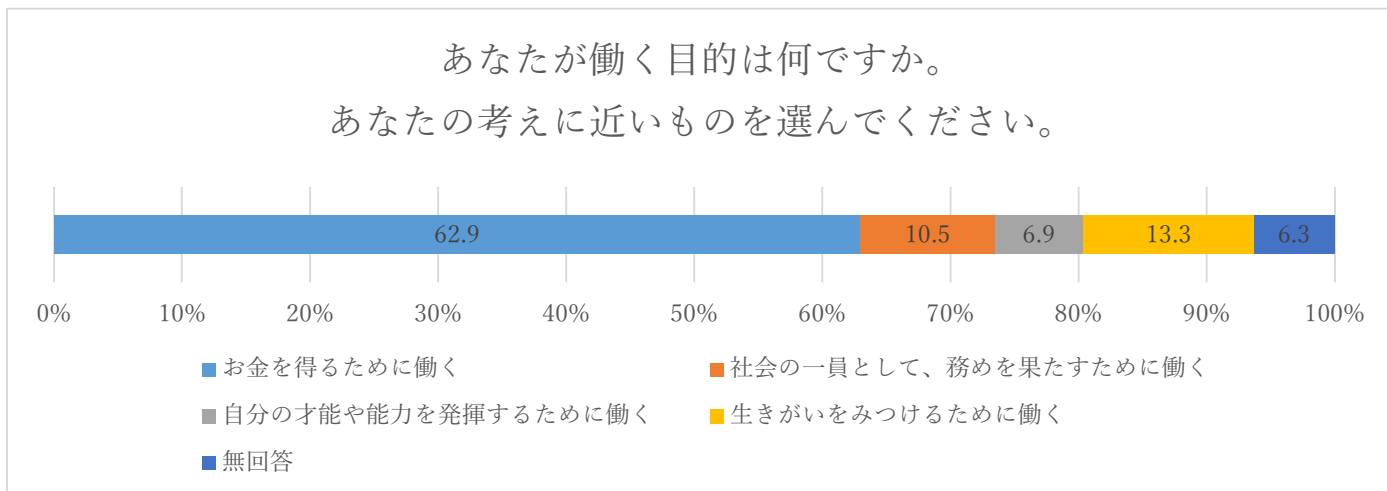
< 生 活 ・ 目 標 >

- 1 さいたま市を住む場所にした理由【さいたま市調査・20～40 歳代】・・・10
- 2 親世代との同居・近居（理想と現実）【さいたま市調査・20～40 歳代】・・・10



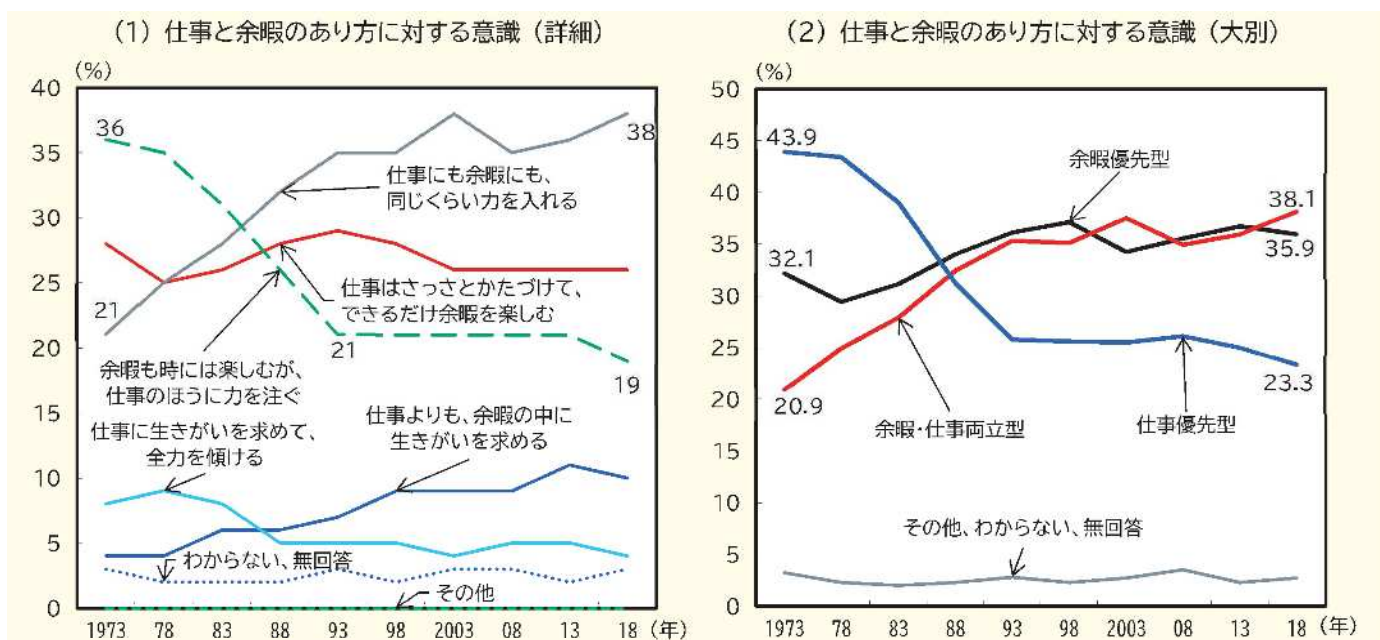
< 働 く >

1 働く目的について【全国調査】



出典：内閣府 国民生活に関する世論調査（令和6年8月調査）を加工して作成

2 「日本人の意識」調査にみる、仕事と余暇のあり方に対する意識【全国調査】



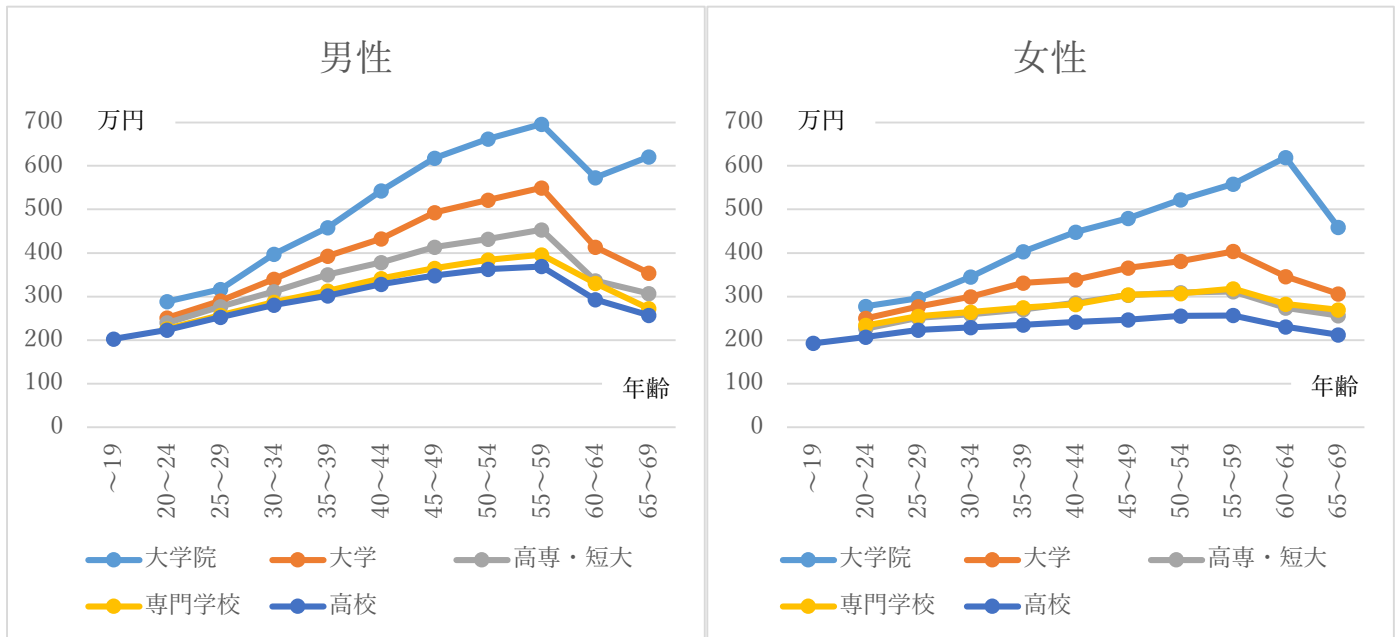
資料出所 NHK放送文化研究所「日本人の意識」調査をもとに厚生労働省政策統括官付政策統括室にて作成

(注) (2) の「仕事優先型」は「仕事に生きがいを求めて、全力を傾ける」と「余暇も時には楽しむが仕事のほうに力を注ぐ」の合計。「余暇優先型」は「仕事よりも、余暇の中に生きがいを求める」と「仕事はさっさとかたづけて、できるだけ余暇を楽しむ」の合計。「余暇・仕事両立型」は「仕事にも余暇にも、同じくらい力を入れる」を指す。

出典：厚生労働省 令和7年版 労働経済の分析

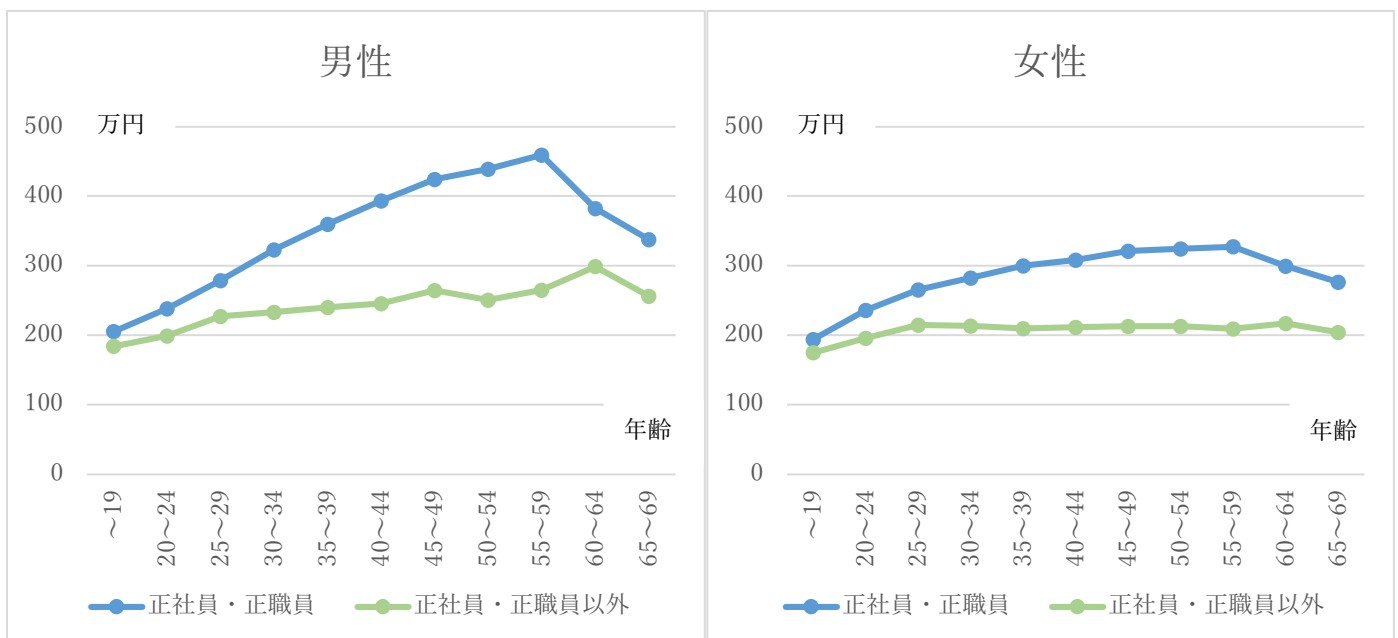
3 賃金水準について【全国調査】

(1) 学歴・年齢階級別賃金



出典：厚生労働省 令和6年賃金構造基本統計調査を加工して作成

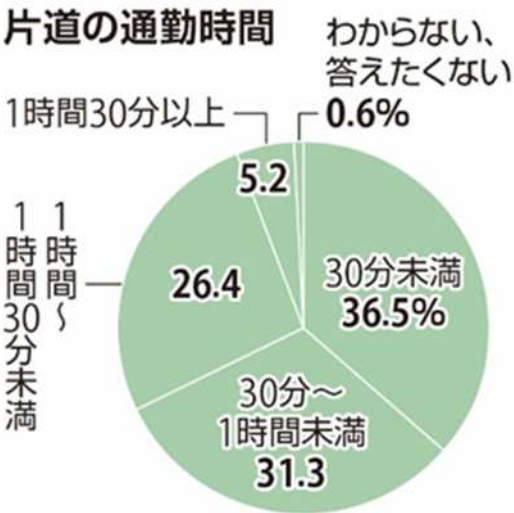
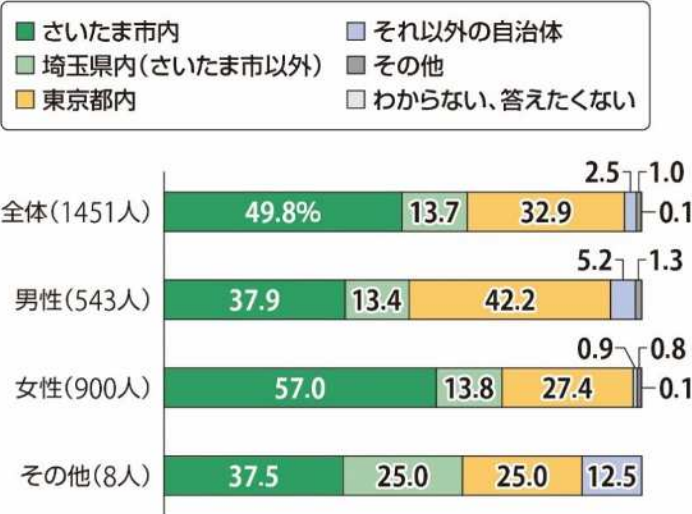
(2) 雇用形態・年齢階級別賃金（正社員と非正規雇用）



出典：厚生労働省 令和6年賃金構造基本統計調査を加工して作成

4 主な勤務地・通勤時間について【さいたま市・20～40 歳代】

主な勤務地 n=1451



出典：2024 年 12 月 さいたま市子育て支援策検証業務に関する最終報告書

< 結 婚 >

1 20 歳代の「理想的な結婚年齢」と「実際の年代別既婚率」【さいたま市調査】

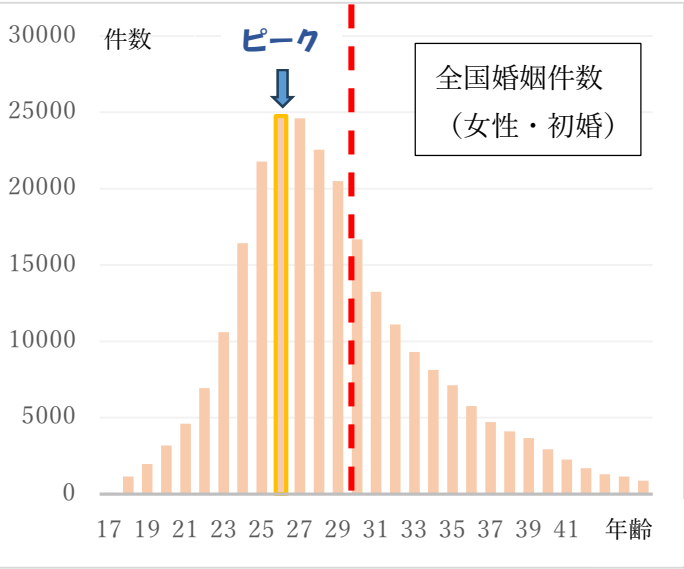
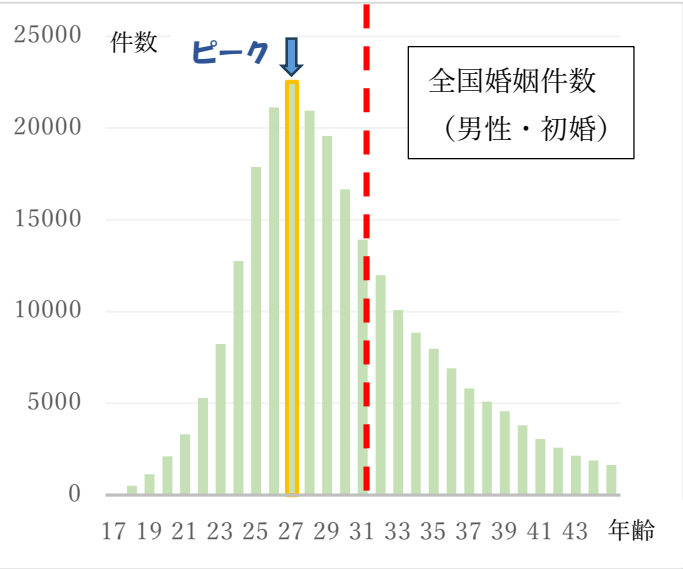
20歳代の「理想的な結婚年齢」と「実際の年代別既婚率」

		20～ 24歳	25～ 29歳	30～ 34歳	35～ 39歳	40～ 44歳	45～ 49歳	結婚する つもりはない
男性	理想的な結婚年齢(20歳代)	6.2%	58.6%	26.9%	2.1%	0.7%	0.0%	5.5%
	実際の年代別既婚率	1.3%	27.1%	63.4%	77.7%	87.8%	86.0%	—
女性	理想的な結婚年齢(20歳代)	3.7%	68.9%	16.3%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%
	実際の年代別既婚率	6.4%	42.8%	87.1%	91.3%	91.5%	92.7%	—

出典：2024 年 12 月 さいたま市子育て支援策検証業務に関する最終報告書

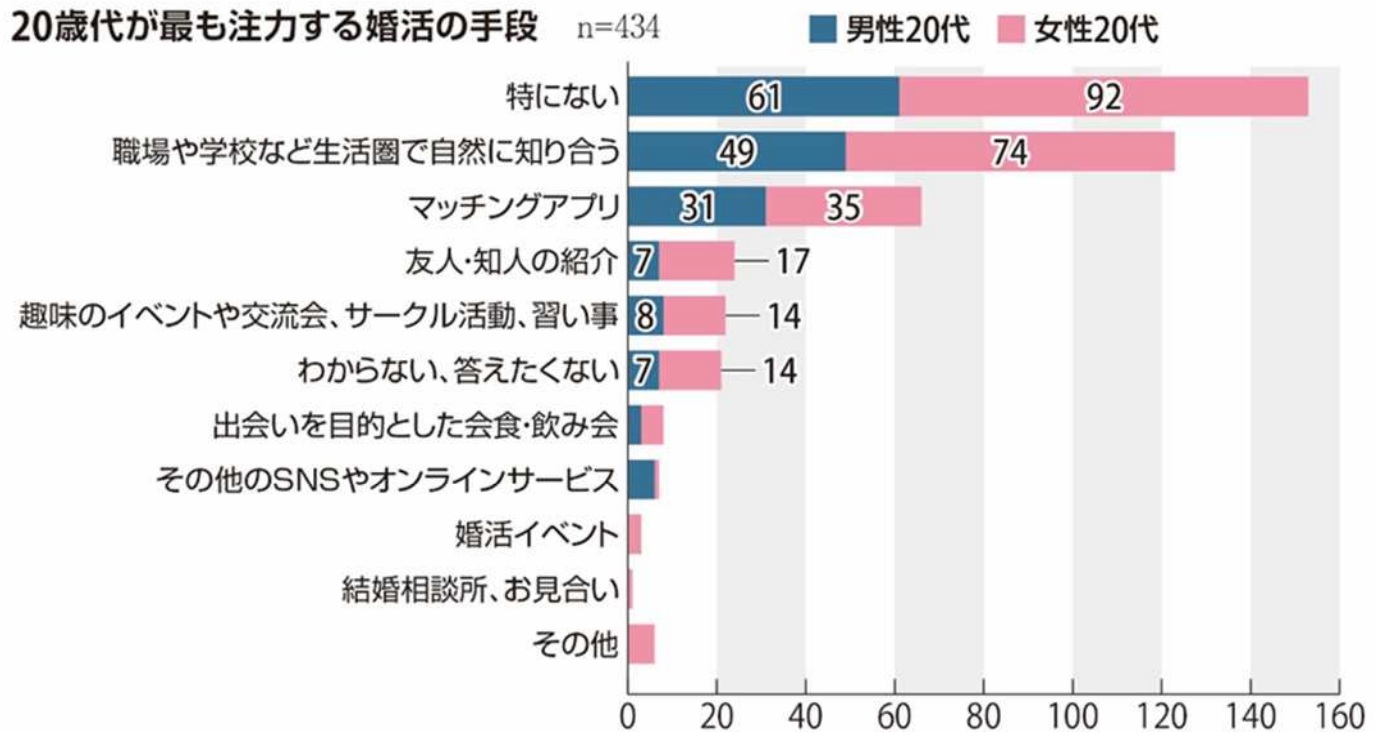
2 年齢別婚姻件数（初婚）【全国統計】

平均初婚年齢（赤点線）：男性 31.1 歳・女性 29.8 歳



出典：厚生労働省 人口動態調査（令和 6 年確定値）を加工して作成

3 20歳代が最も注力する婚活の手段【さいたま市調査】



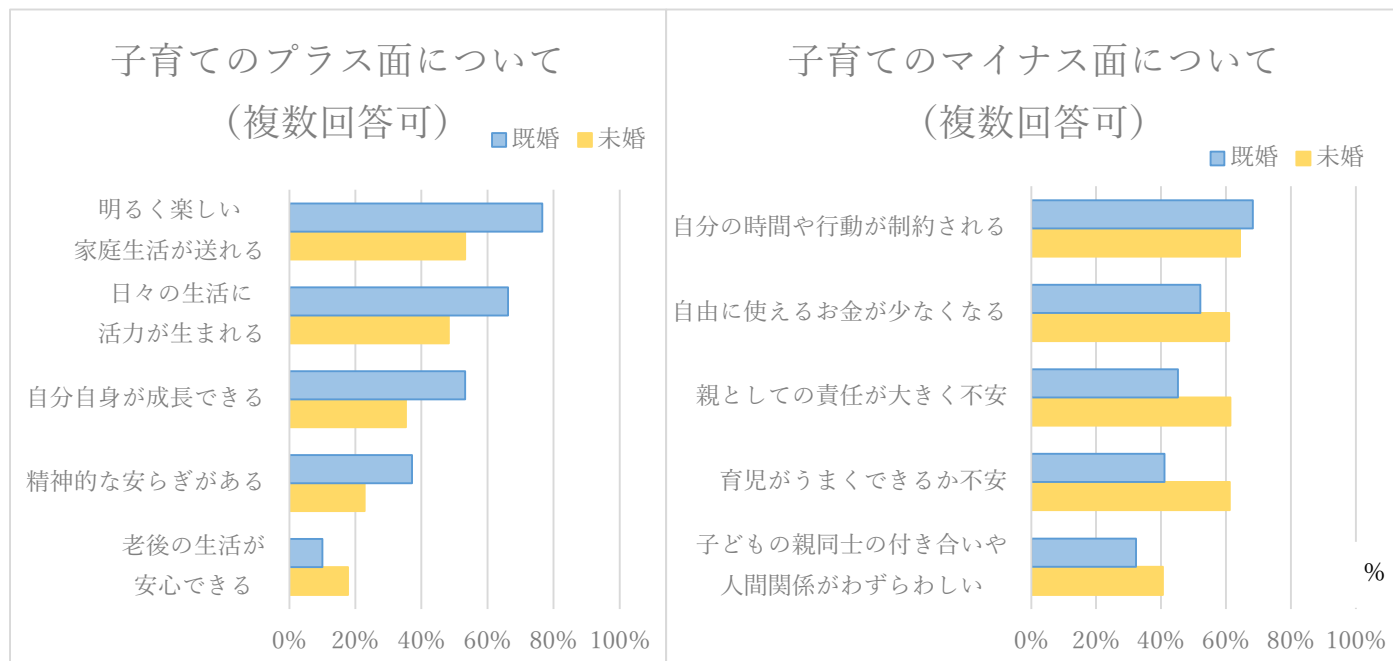
出典：2024年12月 さいたま市子育て支援策検証業務に関する最終報告書

< 子育て >

1 子育てに対するイメージ（プラス面とマイナス面）【さいたま市調査】

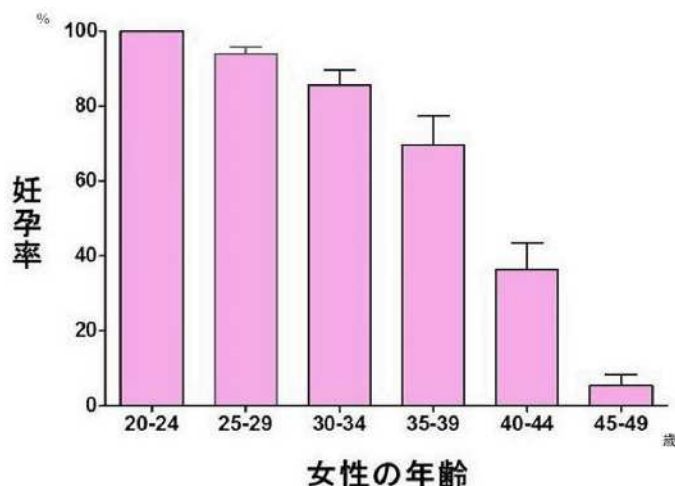
子育てのイメージ（プラス面）

子育てのイメージ（マイナス面）



さいたま市子育て支援策検証業務に関する最終報告書より作成

2 女性の年齢と妊よう力（妊娠する力）【全国】



妊孕率は、女性 1,000 人あたりの出生数（17～20 世紀のアメリカ、ヨーロッパ、イランなど

10ヶ所のデータ：Henry, L. (1961). Some data on natural fertility. Eugenics Quarterly, 8(2), 81-91.) を元に、




20-24 歳を 100% として計算した。年齢の増加に伴い（特に 35 歳以降）妊孕率の低下が認められる。データは

平均±標準偏差で示した。（2016 年 12 月 12 日一部内容を改訂）

【一般社団法人日本生殖医学会 HP から引用】

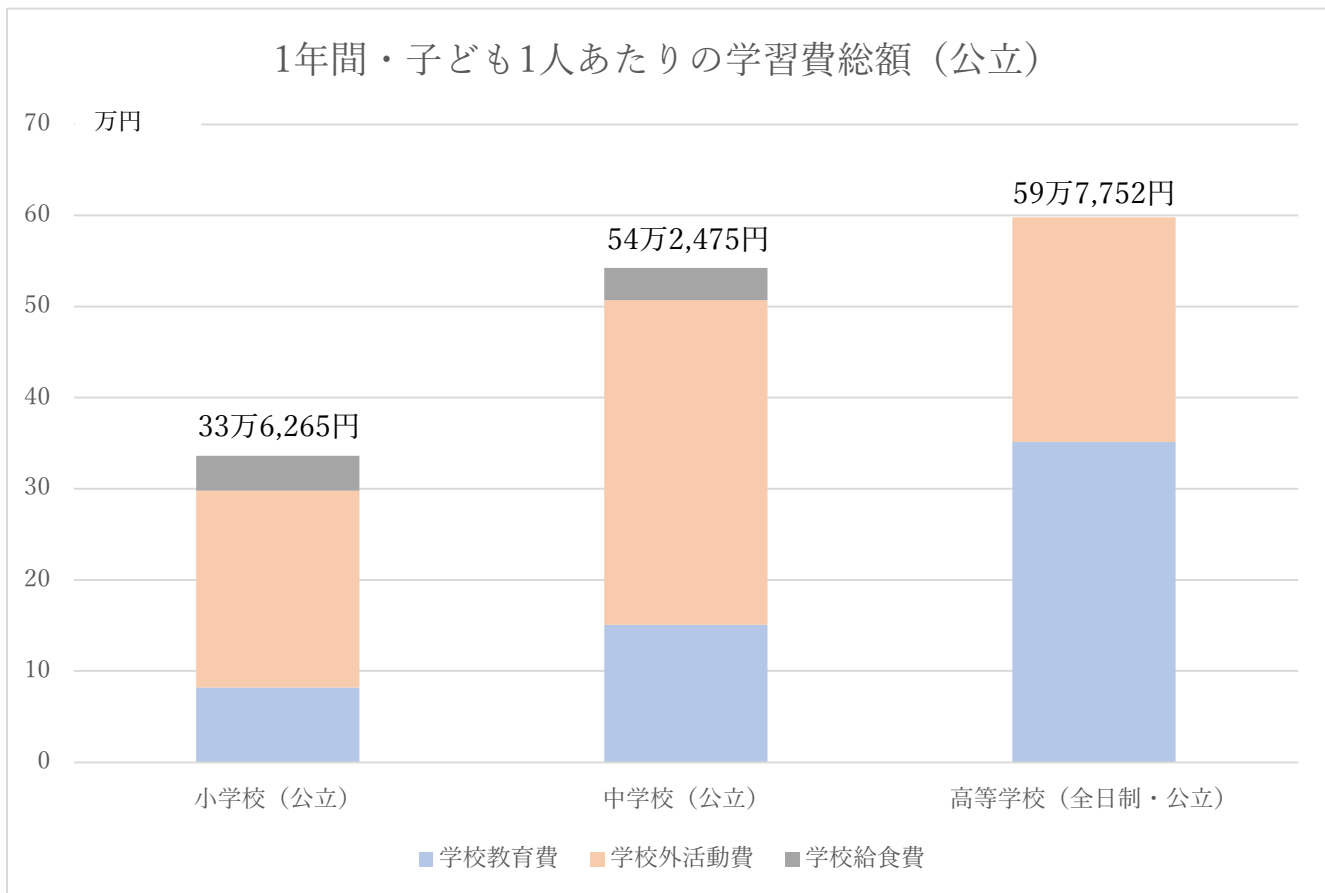
3 さいたま市の主な子ども・子育て支援策

さいたま市の子育てカレンダー ～妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援～

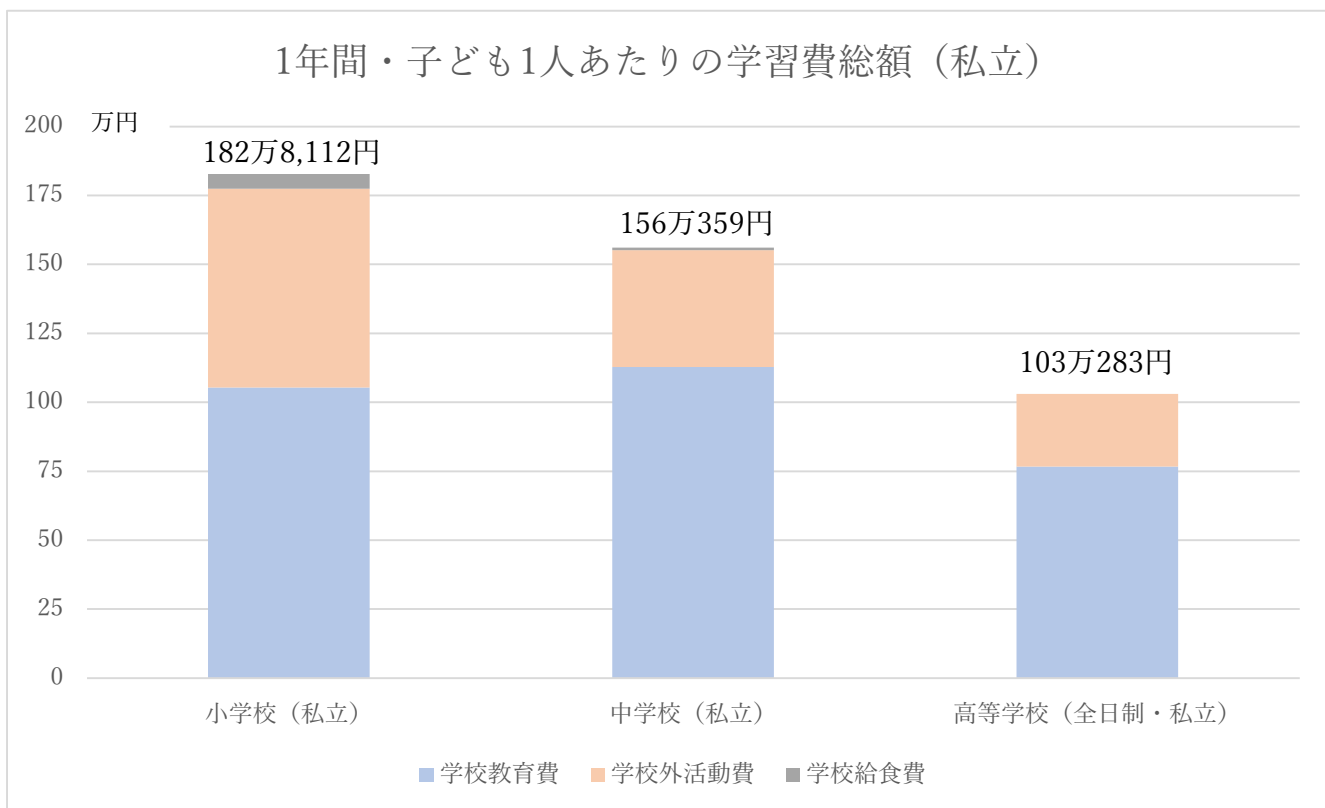
	妊娠前	妊娠	出産	乳児	幼児	学齢
届出、助成、訪問、 子育て支援サービスなど	早期不妊検査費・不育症検査費 	妊娠の届出・母子健康手帳の交付 妊娠高血圧症候群等療養援助費 出産前教室 妊婦支援給付金(1回目) 産後ケア申請(妊娠28週以降) 妊婦訪問 出産育児一時金	出生届の提出 ※生後14日以内	未熟児養育医療給付 小児慢性特定疾病医療給付、指定難病医療給付、育成医療給付、結核児童療育給付 育児学級 妊婦支援給付金(2回目) ふたご支援 産後ケア 産婦・新生児訪問 ハロー・エンゼル訪問 多子世帯子育て応援金 子育てファミリー応援事業 児童手当、子育て支援医療費の助成		
健診など		妊婦健康診査、歯科健康診査	産婦健康診査 先天性代謝異常等検査	新生児聴覚検査 1か月児健康診査 乳幼児健康診査、歯科健康診査	定期予防接種	
相談	不妊・不育の相談	妊娠・出産の電話相談	子育て応援ダイヤル	子育て不安電話相談 育児相談		
預かり、 保育サービスなど	色の凡例 母子保健部門 子育て支援部門 保育施策部門			子育てヘルパーの派遣 パパ・ママ応援ショップ優待カード ブックスタート なんでも子ども相談窓口 家庭児童相談室 保育コンシェルジュ、保育コーディネーター 幼稚園 地域型保育事業所(2歳児まで)、認定こども園、認可保育所 その他保育施設 延長保育、休日保育、病児保育、一時預かり トワイライトステイ、子どもショートステイ ファミリー・サポート・センター、子育て緊急サポート 子育て支援センターの一時預かり 子育て支援センター、のびのびルーム、子育て談話室、なかよしひろば、子育てサロン あいばれっと、児童センター 公民館、図書館		
お出かけ、 友達づくりなど						

出典：子育て応援ブック（さいたま市 令和7年8月発行）

4 学習費総額【全国調査】



出典：文部科学省 令和5年度子供の学習費調査を加工して作成



出典：文部科学省 令和5年度子供の学習費調査を加工して作成

< 生活・目標 >

1 さいたま市を住む場所を選んだ理由【さいたま市調査・20～40 歳代】

さいたま市を住む場所を選んだ理由（複数回答） n=1800

	住む場所を選ぶ際に検討・考慮した要素	さいたま市を住む場所を選んだ理由
第1位	交通（通勤・通学・買い物等）の利便性【72.5%】	交通（通勤・通学・買い物等）の利便性がよいから【51.0%】
第2位	家賃や住宅の価格【53.8%】	親や子、親族などが近くにいるから【31.6%】
第3位	日頃の買い物などの利便性【51.3%】	家賃や住宅の価格が手頃だから【26.9%】
第4位	治安がよく、安心・安全【51.2%】	日頃の買い物などが便利だから【25.7%】
第5位	親や子、親族などが近くにいる【36.8%】	治安がよく、安心・安全だから【24.9%】

- ▶一般的には、「交通の利便性」や「住宅の価格」、「買い物などの利便性」、「治安」などを考慮して住む場所を検討
- ▶一方で、さいたま市を選んだ最終的な理由としては、「交通の利便性」に次いで「親や親族などとの近さ」が多い（特に子どもの人数が多いほど、その傾向が強い）

子どもの人数	回答割合
子どもなし	22.1%
子ども1人	32.7%
子ども2人	39.3%
子ども3人以上	45.7%

出典：2024 年 12 月 さいたま市子育て支援策検証業務に関する最終報告書

2 親世代との同居・近居（理想と現実）【さいたま市調査・20～40 歳代】

親世帯との同居・近居（理想と現実）

理想	同居が望ましい	近居(2km以内)が望ましい	別居が望ましい(近居ではない)	わからない、答えたくない
	5.8%	65.2%	20.9%	8.1%
(子どもなし)	(7.6%)	(56.2%)	(22.7%)	(13.6%)
(子ども1人)	(5.3%)	(69.3%)	(21.9%)	(3.5%)
(子ども2人)	(4.4%)	(70.6%)	(19.5%)	(5.5%)
(子ども3人以上)	(4.3%)	(77.4%)	(15.2%)	(3.0%)



現実	同居	近居(2km以内)	別居(近居を除く)	死亡又は不存在	わからない、答えたくない
自身の親世帯	19.5%	13.2%	63.9%	1.8%	1.5%
配偶者の親世帯	4.0%	13.7%	76.6%	3.0%	2.8%

出典：2024 年 12 月 さいたま市子育て支援策検証業務に関する最終報告書